

## 検査作業工程における動画撮影装置導入のメリット

病理検査室の教育・リスクマネジメントへの利用

◎大鹿 均<sup>1)</sup>、増田 さくら<sup>1)</sup>、石川 裕子<sup>1)</sup>、川口 阿珠沙<sup>1)</sup>、加藤 未央<sup>1)</sup>、廣瀬 美千子<sup>1)</sup>  
株式会社 中部パソロジー<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

弊社は病理検査専門の検査センターとして、2020年開設時から受付～薄切までの検体処理工程を動画で記録を残し、精度管理に努めている。動画撮影装置を各工程に設置する事で、アクシデントの防止や起因となるインシデントの原因究明が可能である事は、前回、第62回 中部圏支部医学検査学会にて増田が報告した。各工程での確認事項等を加えて報告する。

### 【目的】

病理組織標本作製が正確性、不具合発生時の原因特定が確実に行える環境整備。教育、管理にも使用可能。

### 【方法】

汎用監視カメラシステム Swann 社製 16CH 4K NVR をベースとした。設置した IP カメラは計 11 台であり、4K 画質で保存するため 12TB の HDD に換装し、2 か月以上の動画を保持する事が出来ている。また、USB 接続の web カメラを包埋の手元に追加し併用している。

### 【結果】

検体受付から、薄切切片をガラスに拾うまでが詳細に記録され、標本作製工程に不備が無い事が証明できている。また、作製過程で不備が発生していた場合も原因の特定が可能で迅速に修正が出来ている。上長含めた検査従事者は作業工程を動画で確認する事が可能で、インシデント抑制や SOP 通りの作業か確認が容易である。

### 【結語】

要所に動画撮影装置を置くことで、いつでも作業内容を確認する事が出来る。病理検査室のリスクマネジメントとして、動画撮影装置の導入はメリットしかないとは私考える。汎用の監視カメラシステムを利用した場合、比較的案安価で導入可能である。設置位置や機器選定など、施設により検討が必要であるが、動画撮影装置設置は検査室の視認性が高くなり手順の統一化、教育を含めた病理検査室のマネジメントにおいて有用な手法だと考える。

株式会社 中部パソロジー 大鹿 均 058-201-1750